



拠点都市関係(再掲)

■南国オフィスパーク事前協議対策費	1,381千円
■市街地再開発事業	44,743千円
■街路事業	100,290千円
■南国オフィスパークセンター出資金	100,000千円

- 生涯学習の推進と文化都市づくり**
11億3708万3千円
- 学校施設整備 38528358千円
○香長中学校グラウンド 購入、改造など 38328358千円
 - 教育振興 762652千円
 - 地区公民館整備 1048万円
 - 県単公民館整備 4004万円
 - 社会教育研究 40423千円
○生涯学習フェスティバル・まちづくり 29875千円
 - 文化財保護 20275千円
 - 図書館整備 1450万円
 - 社会体育施設整備1580万円
 - 南部総合運動広場建設 58928452千円
- 活力ある産業都市づくり**
7億3049万3千円
- 農林業の振興 5874061千円
○国庫補助農道整備 4040万円
○県単高速道関連 38135155千円
○市単事業 1490万円
 - 商工の振興 1856412千円
○南国オフィスパークセンター出資金 1千円

- 自然と調和したまちづくり**
1134万1千円
- ふるさとまつり 535万円(1800
まほろまつり、星まつり、1800門のまつり)
 - 人材交流 21559千円
 - 拠点都市事業事務費 14859千円
 - 総合計画・土地利用計画策定 23453千円
- 健康福祉都市づくり**
47億8034万7千円
- 児童福祉対策 1,755,8736千円
○久礼田保育所建設18661565千円
○児童手当 18434万円
 - 身体障害者福祉 28694854千円
 - 精神薄弱者福祉 18445759千円
 - 老人福祉対策 885591千円
○デイサービスセンター運営 委託235654千円
○在宅介護支援センター運営 委託219532千円
 - 同和対策 9839475千円
○匡補助小集落改良 888777千円
○県単地方改善 1246万2千円
○市単独地方改善 3924万2千円
 - 保健衛生 281721千円
○保健事業 1420万2千円
○予防接種、検診 2622万9千円

- 快適な生活環境都市づくり**
35億796万1千円
- 下水道整備 789181千円
○公共下水道 484085万円
補助事業 383000万円
単独事業 181085万円
○新市街地下水道 284629万円
 - 水道事業整備 182166万円
○上水道建設改良 1468万円
○簡易水道 117698万円
 - 清掃対策整備 20873865千円
○し尿処理場建設 1489103万3千円
○合併処理浄化槽設置 整備補助 316655千円
 - 消防施設整備 605455千円
○消防ポンプ自動車223054千円
○十市屯所新築 149955千円
○救急措置高度化推進事業 22553千円
 - 公営住宅建設 東崎東部住宅 385618千円
 - 地域住宅 ホープ計画策定 568万2千円
 - 空港対策 2810万5千円

魅力のあるまちづくり 「遊・学」の総合的な整備

平成6年度一般会計当初予算171億円
前年当初比14.6パーセント

一般会計の当初予算は百七十一億九千五百三十四万円で、前年度の当初予算に比べて十の四・六パーセントの増、過去五年間では最高の伸びとなった。これは、後免町中心の市街地再開発事業や南国オフィスパークなど拠点都市関連の事業が始まることから積極型予算となったものである。



第二百四十五回南国市議会定例会が、三月十一日から二十五日まで開催された。この議会では、平成六年度予算など三十二議案が可決された。

- 発展の基礎づくり**
9億4304万9千円
- 道路橋梁の整備 68921952千円
○道路新設改良 684134万円
県単高速道関連整備183454万円
国庫補助市道改良 188000万円
地方特定道路 182100万円
道路単独事業 9630万円
 - 道路維持補修 369052千円
 - 橋梁新設改良 6255千円
 - 道路台帳補正委託 800万円
 - 河川整備 184446万7千円
○河川改良 18246万7千円
国庫補助事業 679753千円
小堀川改修 250753千円
小久保川改修 270万円
小堀川改修 4020万円
県単高速道関連 14945万円
○砂防 4200万円
 - 都市計画整備 186395千円
広域都市調査 610万円
街路事業 18295万円

主な施策は次のとおりです

平成6年度一般会計予算(数字は%)



可決された主な議案

●南国市議会定例会で、平成六年度一般会計当初予算案が、三十二議案のうち三十一議案が可決された。そのうち、平成六年度一般会計当初予算案は、前年度に比べて十の四・六パーセントの増、過去五年間では最高の伸びとなった。これは、後免町中心の市街地再開発事業や南国オフィスパークなど拠点都市関連の事業が始まることから積極型予算となったものである。

●南国市議会定例会で、平成六年度一般会計当初予算案が、三十二議案のうち三十一議案が可決された。そのうち、平成六年度一般会計当初予算案は、前年度に比べて十の四・六パーセントの増、過去五年間では最高の伸びとなった。これは、後免町中心の市街地再開発事業や南国オフィスパークなど拠点都市関連の事業が始まることから積極型予算となったものである。

三月議会一般質問

拠点都市整備など
まちづくりで論議

三月定例会議会一般質問は、三月十五日から十七日までの三日間行われ、澤田、山本(弘)、福田、竹内、高島、西岡、今西、紀伊、山崎、池本各議員が質問に立ち、市長の政治姿勢や行政一般について執行部の考えをただしました。主な内容は次のとおりです。

優3ゆめ1、健康づくりは
か・ん・た・ん

健康文化都市のモデル市の指定を受けて、「健康文化と快活なくらしのまち創造プラン」はどのようなものか。

市民の手による新しい健康観に立った健康文化都市のプランづくりが、三月末には仕上がる段階となっている。

二十一世紀へ向けての新しい都市等に南国市の特色を生かしたような健康文化都市づくりは、地域住民それぞれの健康観を通して行政の中で反映していきたい。

三月十一日、策定委員会(鈴江広幸会長)は「健康ライフプラン」計画案を発表。この計画は「健康づく

り個人健康だけでなく、地域社会や自然・環境の健康づくりを通して生活や人間の豊かさを高め、まちづくりにつなげよう」を基本理念とし、①市民一人ひとりの心身の健康づくりの自然とまちの健康づくり②市民の「支持」の健康づくりを三本の柱に、「新たなまほろばの歴史を創造し、優の健康文化や夢をはぐくむ都市」の創造を目指している。また、優しさにあふれ、市民が仲間意識を持ち、優れた環境を自覚するとともに、優雅な歴史を新たに築く「優」や、「夢」をキーワードに「優3ゆめ1、健康づくりは、か・ん・た・ん」をキャッチフレーズとしている。

後免町全体の商店が南国市の特性を生かせる内容を取っていききたい。人口十万人の都市を目指す中心地として、商店形成、交流人口、定住人口さらに公共的な面を組み合わせる南国の拠点の街づくりを考えなければならぬ。定住人口などについては県の住宅供給公社などに、また宿泊滞在になるとホテル関係が中心となる。さらに空港直連の交通機関金融機関などの問題も多々ある。そのようなことをこれから検討しながら、まちづくりをしていきたい。

各種の構想、計画の策定

市の総合計画の進捗状況、またその策定期間はどうか。

五年間は、現在の総合計画の見直しの要素に、重要な要素が多く基礎要素の整理となった。

市をとりまく社会的・経済的条件が大きく変わっている中、柔仁変化の一つに平成五年の二月に地方拠点都市の地域指定を受け基本計画が県知事承認されたこと、県の総合計画が平成五年十二月に全面改定されたことがある。

本市においても健康文化都市の構想、老人保健福祉計画、生涯学習推進基本構想、農業振興計画、ホープ計画など各種の構想・計画が策定されており、これらを取りまとめ市の総合計画を進めていきます。

後免町の再開発はどう進んでいるか。

後免町二丁目については準備組合が具体的な内容の計画が進ん

南国オフィスパークは産業業務機能を地方都市に分散・集積させ、新しい産業文化拠点をつくるもので、領石地区ほか二十、二ヶ所を約六十億円で開発、約十二、五ヶ所を九年度ころから分譲開始する予定。

後免町の再開発はどう進んでいるか。

後免町二丁目については準備組合が具体的な内容の計画が進ん

考え方と趣を変えた新しい環境に立った制度になるようにしなければならぬ。平成六年度はそのような状況において市議会特別委員会を中心に、調査・検討をしていきたい。

市に帰ったスポーツ

国民体育大会の開催における種目などはどうか。

第五十七回国民体育大会(二千年)は高知県単独開催となった。また、南国市として帰ったスポーツは何か。種目については官民一体の推進組織づくりをし、南国市の体制づくりに努め、将来の本市の生涯スポーツとして市に根づくような種目の開催を目指していきたい。

現在の図書館は、市役所別館に

道の駅の整備についてはどうか。

新しい図書館については、拠点都市事業の一環である吾岡山の文化の森整備、中心市街地再開発の中などの構想をしている。

図書館は、昭和三十六年に市役所別館として建設された建物を五十四年に改装して開館。軽鉄二階建て一階を図書室、二階を市育成センター、埋蔵物保管室として使用。

道の駅の整備についてはどうか。

道の駅の成果を上げ、利用者も多くなっている。道の駅の利点を生かした取り組みもいろいろとされているが、地域の情報発信基地の機能と地場産品の販売を含めた機能を持った道の駅として第三セクターで進めていきたいと考えている。そのために用地の確保として土佐国道工事事務所・県の道路課と協議を行っている。市としては、ふれあい広場の中の一部を借りて進めていきたい。

県の農業確立支援事業が実施されるが、市としての対策はどうか。県が九億八千万円で六年度から新しく進める事業。農林部の中で林業を除くすべての分野を統一とし、各課に分散していた事業を新しく農政課を窓口として対応。県はすでに農業経営の基盤強化の推進に関する基本方針を作成しており、この方針に沿って実施していく。

本市としては、現在できていない農業振興計画により、農業経営基盤強化促進基本構想ができていくので、それにより積極的にこの事業を取り入れ実施していきたい。

農業確立支援事業とはこれまで県主導で実施してきた県独自の市町村補助事業を一本化し、市町村の発想に応じて事業の組み立てができるよう組み替えた総合補助事業。

姉妹都市
みちのく
岩沼市



竹駒神社

このコーナーでは、姉妹都市岩沼市について紹介していきます。今回は竹駒神社についてです。

この神社は承和9年(842年)、54代に明天皇の御代に百人一首で有名な小野篁(おののたかむら)が陸奥守として赴任の際、創建したと伝えられています。

衣食住の守護神である倉稲魂神(うかのみたまのかみ)・保食神(うけもちのかみ)・権産神(むすびのかみ)を祭神とし、五穀豊穡、商売繁盛、家内安全の信仰を集め、岩沼市民の心のよりどころとなっています。岩沼のシンボルともいえ、年間約180万人の参拝客が訪れにぎわいをみせています。

最も大きな行事は、岩沼の早春の風物詩ともなっている初午大祭で、旧2月の初めての午の日から7日間にわたって開催されます。祭り期間中の日曜日には、神樂渡御が行われ、竹駒社の行列が「セイサーオーワセ、イヤートマカセ」の勇壮なかけ声を先頭に700人ほどが市内を練り歩き、さながら往時の大名行列のようで、浴道を埋めた観客の足を釘付けにするほどです。境内には100軒あまりの出店が並び、お祭り気分をいっそう盛り上げます。